

氏 名	おおさわ かなこ <b>大澤 香奈子</b>
学位(専攻分野)	博 士 ( 学 術 )
学 位 記 番 号	博 甲 第 610 号
学位授与の日付	平成 23 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研究科・専 攻	工芸科学研究科 先端ファイブロ科学専攻
学 位 論 文 題 目	JOURNAL DES DAMES ET DES MODES における服飾の定量的分析
審 査 委 員	(主査)教授 森本一成 教授 佐藤哲也 教授 鋤柄佐千子

### 論文内容の要旨

服飾史研究書の多くは近代の女性服飾の推移をスタイルの形態的特徴の変化で説明しているが、その推移が計測に基づく数値データで示されたことは少なく、モードについての定量的な分析はほとんどなされていない。Journal des Dames et des Modes パリ版は 18 世紀末から 19 世紀中葉までの女性の服飾が劇的な形態上の変化を呈した時期に刊行されたもので、そこにはその時々のモードが記録されており、ファッショントレンド Costumes Parisiens は約 40 年間のスタイルの推移を目にかかる形で示している。申請論文はこの Journal des Dames et des Modes パリ版を資料として、服飾の形態、色、並びに表現の諸側面についての定量的な分析から考察を行い、これまで服飾の文献調査研究で指摘されていた知見の一部を検証するとともに、色使いや形態変化に関する新たな知見を提示することを目的としたものである。なお、本研究に用いた甲南女子大学所蔵の Journal des Dames et des Modes パリ版はほぼ完全なかたちで揃っており、時系列で連続的なデータを得ることができる非常に貴重な資料である。

本論文は 6 章から構成されており、以下に各章の概要を示す。

第 1 章ではモード雑誌を扱った服飾文化研究と人文科学的研究内容をレビューしている。先行研究における課題に関する検討に基づいて、本研究の目的（前述）を述べている。

第 2 章では本研究が対象とする分析資料の選定をするために、掲載情報についての基礎的調査を行っている。Journal des Dames et des Modes に掲載されている記事の中で、終刊までほぼ変わらずに見られる情報は MODES と Costumes Parisiens することがわかった。また編集のあり方から、Modes は Journal des Dames et des Modes の構成の核であったことが伺えた。Costume Parisiens については描かれた女性の装いをアイテムとディティールから分類し、コーディネートパターンを把握することにより装いの時間的変化を見ることを可能とした。中でも半袖のローブ・デコルテの衣装に帽子を被らないコーディネート（夜会服に相当するコーディネート）が最も明確に衣装の TPO を伺えることを示した。また、Costumes Parisiens に必ず記されたキャプションは、描かれた服装について解説するだけでなく、描かれた図像では表わし得ない装いの付加価値を表しており、Costumes Parisiens の重要な情報の一部となっていることも明らかにした。従って、MODES と夜会服に相当するコーディネートの描かれた Costumes Parisiens が、モードの推移を検討するための資料として適していると結論づけている。

第3章ではCostumes Parisiensに描かれた図像のプロポーションとキャプションの分析を行い、エンパイア・スタイルから新しいスタイルへの推移の過程を数値的に捉えている。エンパイア・スタイルから新しいスタイルへの推移の中で既に広く知られている形態的変化であるウエストラインの下垂と袖のボリュームの膨大化の推移を数値的に明らかにしている。数値的に捉えた形態的変化の過程を、(I期)新しい形態を模索する移行期、(II期)広く知られているロマンチック・スタイルの特徴が最も顕著に見られるロマンチック・スタイル前期、そして(III期)クリノリン・スタイルの予感を感じさせるロマンチック・スタイル後期の3段階で説明できることを示した。また、これまで指摘されていなかったウエストラインの下垂の変化が表れる直前の期間には、一層のハイウエストの傾向があったことを明らかにしている。さらに、Costume Parisiensに記されたキャプションは、装いの目的や衣装の用途から徐々にアイテムのより詳細で具体的な説明が記されるようになって行ったことも示した。

第4章ではファッショントレートの特長である豊かな色彩とMODESのテクストに提示された服飾の色情報を用いて、モードとしての服飾の色を分析している。ここではスタイル推移の段階別にどのような色彩特徴が見られるかを検討するために、1800年、1810年、1820年、および1830年の4年間を対象としている。当時の衣装における白と赤の汎用性は既に知られていたが、それを測色データにより裏付けることができたと述べている。また、その赤色の使用範囲を色度で明示している。さらに、短期的に流行した色の存在を伺わせる新たな知見を示している。この短期的流行色は常に確実な価値を持つ白と赤に対し、服飾の色に新しさという価値表現を与える役割があったとの解釈を示している。

第5章ではモード雑誌の大部分を占めるテクストを分析対象データとし、服飾表現の特徴について定量的な検討をしている。その結果、さりげなさやシンプルさが全体のコーディネートを支配する高級感はあってもシンプルな装いと、高級素材の使用や華美で豪華な装飾を誇る装いといった異なる服飾表現特徴の装いがあることを明らかにしている。また、シンプルと豪華のどちらも優雅との関係が比較的大きいことを指摘している。

第6章では各章で得られた知見をまとめ、今後の課題を述べて本論文の結びとしている。

## 論文審査の結果の要旨

申請論文はモード雑誌Journal des Dames et des Modesパリ版を対象として、そのテクストとファッショントレートの両面から時系列データを切り出し、服飾の形態、色、表現の諸側面について定量的な分析を行った。その背景には服飾史研究書の多くが近代の女性服飾の推移をスタイルの形態的特徴の変化で説明しているが、それが数値データで示されたことは少なくモードとしての服飾の定量的な分析が手薄なままということがあった。服飾の形態に関する分析から、エンパイア・スタイルから新しいスタイルへの推移の過程を数値的に検証し、既に広く知られた形態的変化のウエストラインの下垂と袖のボリュームの膨大化を数値的に明らかにした。また、スタイルの形態的変化とキャプションの情報内容について、服飾と政治、文化、人々の意識と言った背景要因との繋がりを考察し、スタイル推移の過程を1820-1829のI期、1830-1834のII期、1835以降のIII期として段階的に特徴づけることに成功している。次に、服飾の測色分析と色彩語の使用頻度分析により、これまでに広く知られた白と赤の汎用性を確認すると共に、色使用の変

化を時系列で明らかにした。また、当時のモードにおける色の流行については、1800 年の緑など、1810 年の空色、1820 年のライラックなど、1830 年のヴァイオレットなどが短期的に流行した色であったという新たな知見を提示したことは評価できる。さらに、モード雑誌の大部分を占めるテクストを分析対象データとして服飾表現の特徴を検討し、高級感のあるシンプルな装い、上品で優雅な装い、そして豪華さが際立つ装いの 3 つの表現があることを明らかにした。

以上のように、服飾をファッション・プレートとモード雑誌のテクストの両面から分析することによりスタイルの段階的推移や色彩変化に関して定量的データに基づく新たな知見を示した。ただ、それらの知見に対する歴史的背景や織織技術や色材の製造技術などとの関連からの検討は不十分であるので、さらに深い議論の展開を期待する。なお、本研究で使用した *Journal des Dames et des Modes* パリ版は 18 世紀末から 19 世紀中葉までの女性服飾のモードを研究するための貴重で簡単には手にすることのできない資料であるが、このファッション・プレートの測色を行い色彩の変化を系統的に整理したのは申請者が初めてであり、このデータベースは服飾文化の研究にとって重要な資料となる。

本論文は申請者を筆頭とするレフリー制度のある 3 編の学術雑誌論文と 2 編の国際会議発表論文を基に構成されている。

1. 大澤香奈子, 木岡悦子 : 1830 年代における *Journal des Dames et des Modes* の編集とメディア機能、日本家政学会誌、Vol. 56、No. 11、pp. 797-805 (2005)
2. 大澤香奈子, 森本一成 : 色彩情報から捉えた 1830 年パリ・モードの特徴、服飾文化学会誌、Vol. 9、No. 1、pp. 93-98 (2008)
3. 大澤香奈子, 森本一成 : 夜会服に見る流行色とモードとの係わりについて—JOURNAL DES DAMES ET DES MODES 1800-1838 を資料として—、服飾文化学会誌、Vol. 10、No. 1、pp. 85-92 (2009)
4. K. Ohsawa, K. Morimoto: Textile Design Concepts for the Consumer Culture in the Mode Business, The 9<sup>th</sup> Asian Textile Conference, CD-ROM E01-30 (2007)
5. K. Ohsawa, K. Morimoto: The Change of Coloring of Evening Gown in Fashion Plates *Costumes Parisiens in 1800's*, INTERNATIONAL ASSOCIATION OF SOCIETIES OF DESIGN RESEARCH 2009, No. 187, CD-ROM (2009)